

令和3年度文京区アカデミー推進協議会 第1回分野別分科会（学習活動分野）
概要記録

日時 令和3年6月8日（火）書面開催
委員 田中雅文委員◎、増田純委員、三浦武裕委員、高澤芳郎委員、牧野恒良委員、増田みゆき委員、田口稔己委員、柳下幸一委員、山内豊委員、高橋由貴子委員、今井瑛里子委員（◎座長）
幹事 高橋征博アカデミー推進部長、細矢剛史アカデミー推進部アカデミー推進課長、齊藤嘉之教育推進部真砂中央図書館長
資料 資料1 次期アカデミー推進計画の構成（案）
資料2 学習活動分野の定義及び現状と課題
資料3 意見等記入様式

会議内容

- (1) 次期アカデミー推進計画の構成（案）について
- (2) 学習活動分野の定義及び現状と課題について

以下、書面会議のため項目ごとにご意見を列記する。

○項目に対する意見 ●その他の意見

① 誰もが参加しやすい学習機会の提供

ご意見
○文化・障害の有無等という壁を取り払い、すべての人が「共に学ぶ」ための場・時間・機会の提供に取り組む。
○「弱者支援」ではなく「すべての人が互いに共存し助けあって」学ぶ学習機会を提供する。
○「健常者（優位者？）が弱者」への「人にやさしい」関係ではなく、「すべての人がすべての人」に「人がやさしい」関係の「生涯学習」に。
●表現が難しいのですが、「外国人・障がい者への○○支援」という言葉には「対等関係でない」無意識な優越性を感じる場合もあるかもしれません。私たちも、「外国人・障害者の方に助けられて支えられている」という意識を育てるような生涯学習の方向性を構築するのもありかと思えます。
○大枠は記載の通りと思うので、これらをどう具体的に事業に反映させるかを考え、あるいは広く意見を募るなどで実現していく。 コロナ禍でやる事が無い人たちがスマホに逃げるのではなく、何かひとつでも学習す

ご意見

る方に意識を向けることがより豊かな人生を過ごすきっかけになる事例など多く紹介するなど。私もこの1年で様々な補助金支援金の申請書を20以上は書いているので、その中で様々な「却下」を経験し、法律の知識が様々な申請において重要であることを痛感したものです。そんなことで行政書士の勉強など始めたりと、きっかけはすぐそこに転がっていると思います。

○誰でも参加しやすい学習機会を提供するのは良いことであるが、1. レベル 2. 興味 3. 時間帯 などが異なる。可能ならば、講座、コース等を増やし、選択肢を多くする事が有効であるが、難しいと思われる。多くの人が興味を持って楽しく学べる機会が良いと思うが、多様な人（年齢や文化の異なる人、障害のある人）を理解し一緒に学び、コミュニケーションを取っていくことも、それ自体も学びになると思う。

○東京都が提供しているサービスにも目配せをして、重複することのないように企画していくこと、また、すでに行っている施策もその効果を常に注視し、必要に応じ、思い切って廃止していくことも検討していくことが大事かと思えます。

○「子どもから大人まで」を謳っているものの、現状は夏休み等の期間を除き、若年層向けの講座が少ない印象を持っている。文京区は教育意識の高い子育て世代が多いため、子ども向けの講座を拡充することで、若いうちから活動する受講者層を育成できると共に、文京区の魅力向上にもつながるのではないかと。

○学校に関わる中で、このコロナ禍において、経済格差による学習格差は顕著なものがある。

特に、塾に通っていない子ども、或いは習い事をしていない子どもは、それらに通っている子ども達に比べると学習機会が少ない。文京区の学校が多い、という土地柄を活かし、大学との協力でそのような子どもたちへの学習機会、文化芸術に触れたり、スポーツに参加できる機会が確保できるのではないかと、思う。

これらを実現した結果、区民同士の繋がりや、学生が文京区に愛着をもって地域に密着した活動を展開してくれたらと思う。

●高齢者や外国人、障害のある人が、子ども達と一緒に学ぶことのできる環境もあれば、双方のために更に有益な学びとなるのでは、と思う。

○「思い立った時に、時・場所を選ばずに」ということでは、その目的に合致したツール（スマホ、タブレット、PC、パッケージソフト、YouTube、CATV等）への対応と学習ソフトの蓄積が必要。それらの整備が求められる。一方で、現行の様々な学習機会をもっと知らしめていくことも重要と思う。まだまだ知られていない機会損失が多々あるのではないかと、思う。

○若い世代の参画推進策は、次世代への継続性・発展性からも極めて重要であり、区内の学校、企業、サークル等と連携を図り、資格制度・同好会化・サークル化の推進が望ま

ご意見
<p>れる。</p> <p>○図書館のポテンシャルは高く、本来業務以外での活躍が期待される。地域資料や地域の歴史の紹介・地域に関係する著名人の功績等、魅力的なテーマの企画が望まれる。多くの地域の人々が継続的に集まれる場としての企画の検討、また着目度向上の為に区内図書館全体での一定期間を通しての企画・イベントのシリーズ化等（～月間、図書館祭り・ラリー等）の検討も必要と思う。</p>

② 学習活動の役割と考え方の整理

ご意見
<p>○「生涯学習」の定義・イメージが区民それぞれ異なるので「学習活動」が滞りなく行われるには鳥瞰的なものが必要になる。</p> <p>○「啓蒙」ではなく「生涯学習」というものへの自発的行動を促すのがまず「役目」として大切である。したがって、区民のニーズのもとに「知識の提供の必要性」を考慮すべきである。</p>
<p>○ここも上記と同様仰っていることはご尤もなので、具体的な事業にどう反映するかというところを議論していくべきでしょう。SDGs は音楽界は室町時代からやってきていることですし、学習活動にも当然応用は出来るでしょう。</p>
<p>○外国人とコミュニケーションを取る機会は明らかに減少した。しかし、コロナの終息とともに回復はすると思う。しかし、外国人との出会い＝外国文化への理解、多分化共生社会への関心の高まりにはならない。こんな時だからこそ、学習して高めていくことが必要であり、メディア、書籍、映画などの活用も有効だと思う。</p> <p>○SDGs は、定着した言葉にはなったが、本当の意味を理解できているとは限らないと思う。持続可能な社会をめざす為に、生涯学習の立場からも支える必要があるのではないかと思う。</p>
<p>○学習機会が少ない、例えば高齢者等への重点配分が望まれます。</p>
<p>○アフターコロナの国際交流の再開に向け、外国語や外国文化に触れる学習機会は必要である。また、子どもの頃から関心を高めることは有効であるため、大人向けだけではなく、若年層向けの学習機会の提供も必要であると考えられる。</p>
<p>○コロナ禍で、外国文化等に触れる機会が減少しているが、一方でニュース等ではその文化の違いを目の当たりにしているように感じる。</p> <p>その情報が正しいのか判断したり、受け入れるには SDGs 第4の目標「質の高い教育をみんなに」が必要になっていると思う。</p> <p>持続可能な社会を実現するための生涯学習というものも一つの考え方ではないだろう</p>

ご意見
か。
○多民族・多文化への知識を得ることで国際社会についての理解を深めることは、益々重要となっており、協会、諸団体、大学、NPO、事業法人等の活用による学習機会提供の安定化・継続性が望まれる。一方、地域ごとに関心の高い人々が交流を深められるような、サークル化につながるような場作りの検討も重要と思う。

③ オンラインを活用した学習機会の提供と支援

ご意見
○「誰でもどんな時でも学べる」という学習機会の拡大にオンラインは不可欠である。特に教室・会場に出向くことができない区民にとってオンラインは「一生学び続ける」ための絶好の手段なるものである。
○上記の利点を十分に活用させるには、区民へのオンラインへの誘導やサポートへの取り組みを早急にする体制も必要。
○デジタル教育、非接触型の講座、情報交換といったキーワードは次期計画のキーワードにならないといけないと思います。オンライン講座が主体となり、対面で直接講師の地声がじかに聞けるということにプレミア感(希少価値)を出すような仕掛けが有効だと思います。
○オンラインの重要性はよくわかる。年齢を問わず、そのレベルにあった学びが必要だと思う、その人にとって易し過ぎる事も向学心が失せてしまうし、難し過ぎても効果がない。高齢者等弱者に教えたりする事で、技能も高まるし助け合いの気持ちも生まれるし、高齢者等の助けにもなる。助け合う、交流する等で、学びにもなり、人間関係にも良い影響が出る。孫に教わり、コミュニケーションを楽しんで、技術が伸びた高齢者もいる。
○オンライン講座の実施に当たっては、高齢者がアクセスしにくい点に特別な配慮が必要と考えます。
○「アフターコロナの国際交流の再開に向け、外国語や外国文化に触れる学習機会は必要である。また、子どもの頃から関心を高めることは有効であるため、大人向けだけではなく、若年層向けの学習機会の提供も必要であると考えられる。
○オンラインでの学習は、手軽で参加しやすいという側面がある一方で、実際に対面で感じたり体験できるものが実現しにくいという部分があるため、ハイブリッド型の学習機会の新規開発に力を入れるべきだと思う。 まずはデジタル弱者へのデジタル教育の基本学習、支援提供を進めることで、区民間での評判等の情報交換が進むのではないかと思う。

ご意見
●オンラインでの学習は手軽だが、移動する必要が無いので忘れがちになる、という一面もあるので、リマインドメールをお送りする等対応が必要ではないかと思う。
○オンライン講座の増加に伴い、オンライン利用の為の基本学習プログラムがセットされた講座内容の検討もあって良いのではないか。
○「オンラインか対面か」ではなく、「オンラインでも」「対面でも」と、求められるニーズに如何様にでも対応できることも求められると考える。さすれば、ある意味で、「どこでも、いつでも」に対応できるようになるのではないか。

④ 学びを通じた交流へとつなげる取組の強化

ご意見
○①で記したようにあらゆるバリアをフリーにした「学びの場」を提供することで今まで触れ合うことの少なかった人との交流がよりスムーズになる。
○「対象者別の学習機会の拡大ではなく」、自分以外の他者との「異文化交流」がよりたやすく行えるような「横のつながり」の学習の場が増えるようになるといい。
○SDGs と関連して、講座を受けた人が次に教える側に回るといった取り組みを目指すことが重要と思われる。学生が取得し就職活動のアピールポイントとして後押し、いう記載は今時学生がそうした動機で取り組むかどうかを精査した方が良いように（個人的には一昔前の考え方かと）思います。今は一つのことにとこだわって研究・学習したことをYoutubeなどで普通に公開出来て、かつ人に見てもらいたい欲求も満たされるので、却って就職活動と紐づけることで「あざとさ」を感じるという面もあります。
○一人で学習するより、「交流型」の方が、お互いに励ましになり刺激し合って向上する事もあるし、「交流」は大事である。また、学習する事で仲間ができ、ネットワークができる事もあると思う。
○生涯学習司などは、自己確立のために養成講座を受ける人が多いという事だが、「自己確立」も大切だと思う。しかし、人材が不足しては困るので、活動自体が面白い、自己の向上に役立つようにできないだろうか。
●全く知らなかった人と繋がる事には今の時代不安な事もあるが、その点では町会などは安心できる。
○書面で提示されている、生涯学習司等への講座受講前に資格取得後の活動指針の明示、及び受講者の資格取得後の期待との摺合せが必要不可欠と考えます。
○交流型の学習を推進するにあたっては、講座終了後に個人で交流の場を設定することや、発表の準備を行うことの難易度が高いと考えられるため、講座の中でケアしてあげることが必要ではないか。

ご意見
<p>○交流へつなげるには、やはり交流型の学習が有効だと思うので、一方通行になりがちなオンライン学習は課題が残ると思う。</p> <p>また、町会に入る人が減り、町会の高齢化が進む中、若い子育て世代に地域に興味を持ってもらい更に横の繋がりができるような内容や取り組みを強化していくことが急務ではと思う。</p>
<p>○交流や地域のつながりの拡充を考える時、図書館・学校・地域センター等を核とした活動を視野に入れ、企画を検討していく仕組み作りが必要と考える。</p>

⑤ 学習活動環境の充実に向けたネットワークの構築

ご意見
<p>○学習司・インタープリター・サポーターの資格者がそれぞれ養成講座で得た専門分野で生涯学習を支援できるようなしくみを確認する。3つの資格それぞれに生涯学習への役割は異なっているので、それがうまく運用されるような誘導が必要。</p>
<p>○区民が生涯学習で得た知識を区民に還元するという形として区民プロデュース講座があり、これがうまく運用され区民にグレードの高い講座を提供できてきた。しかし、時代と共に課題が生じている。応募要項の見直しをはじめ、運用方法の検討など「知識を循環するのに最もふさわしい」新しい区民プロデュース講座になるようにすることが望ましい。</p>
<p>○コミュニティ形成の必要性や相互連携協力、成功事例の提示、民間との差別化などがキーワードになりそうです。「つながりづくり」と記載している通り今コロナ禍において誰かと同じ価値観を持って話ができることが精神的な安定剤の役割を担っていると考えられます。NHK あさいちでも報道されていましたが、何か自分の応援する子に喜んで貰いたい、ゲーム内で課金することで同じ土壌にいられる、などの理由で多額の投資をしてしまう40代の大学教授の話もあり、そんな人までそんなことに金を使うのか、と驚くばかりです。「つながり」というのは人の欲求を満たすものであるという考えで、どのように構築するかを考えていきたいです。</p>
<p>○生涯学習司、地域文化インタープリター、アカデミアサポーターは、連絡を密にし無駄に重ならないよう効率的に活動して欲しい。それにはネットワーク作りが必要と思う。</p> <p>また、養成講座等を修了してもさらなるレベルアップも必要だし、本人にとっての向上心に繋がり、全体の向上にもなると思う。</p>
<p>○文京区には、歴史的、文化的にも学習や講座になる物が多いので、活かして欲しい。</p>
<p>○講座の受講は主に知識の伝達に終わっていて、学習活動環境の充実という観点からは、不十分と言わざるを得ません。生涯学習活動ボランティアとして、積極的に活動してい</p>

ご意見
<p>る人が特定化され、次期役員選任に苦勞していると思われます。意欲のある人、時間のやりくりが出来る人を発掘していくために、そのインセンティブを働かせる工夫が望まれます。</p>
<p>○学習活動の地域還元のイメージが沸かないことが大きな要因と考えられるため、成功事例を具体的に提示することは重要である。また、講座テーマが課題解決に関する場合は、学んだ内容を他者還元できる可能性が高いため、個人の趣味、生きがい等に偏らないラインナップの見直しも必要と考える。</p>
<p>○文京区民の文京区への愛着の強さを活用し、「文京学」の体系を確立し、例えば「文京学」検定のようなことも検討してはどうか。また、区民有志の登録制等の活用により、母集団を増やし、同好会化・サークル化を進めていくことも、若い世代の取り込みも含めて、将来の財産につながると考える。</p>

⑥ その他

ご意見
<p>○可能ならば、Zoomでの会合も良いと思います。</p>

以上